

## 国立トレチャコフ美術館所蔵 ロマンティック・ロシア

Bunkamura ザ・ミュージアム（渋谷） 2018.11.23～2019.01.27

イワン・クラムスコイ 《わすれぬ女（人）》 部分 1883年 油彩/カンヴァス  
19世紀～20世紀初頭のロシアは、帝国崩壊の兆しが見え始め、やがてロシア革命という荒波に飲み込まれる激動の時代であった。



本展は、ロシア美術の殿堂・「国立トレチャコフ美術館」が所蔵する数多くのコレクションから、同時代を代表する「72点」が来日して展示されている。

展示作品は、美しく広大な自然に眼差しを向けた「風景画」、複雑な社会で生き抜く人々を題材にした「絵画」など、様々な物語を感じさせるものである。

イワン・クラムスコイ 《月明かりの夜》 1880年 油彩/カンヴァス



特に注目されるのは、見る人をロマンティックな世界へと誘う「女性像」作品であり、夜の古い庭園でもの想いにふける白いドレスの麗人を描いたロシアの日常的な風景にロマンを感じるものだ。

展覧会の「見どころ」は、日本にはない広大な大地や深い森、吸い込まれるような深い森、都会の中に見つけたロマン、子ども達など多彩である。

イワン・シーシキン《雨の樞林》 1891年(左) ニコライ・グリツェンコ  
《イワン大帝の鐘楼からのモスクワの眺望》 1896年(右)何れも油彩/カンヴァス

